

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	401教室
担 当 教 員	小山 正	実務経験とその関連資格	京都市児童福祉センターにおいて約9年間、心理判定員、療育部門での心理セラピストを務めた。また、大学において、教育・研究活動と共に言語発達相談を行ってきた。(臨床発達心理士、臨床心理士、公認心理師)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>言語獲得過程に見られる非定型性に関する最近の研究を紹介しながら、言語発達症の評価・支援の観点と基本について知る。本講義では、知的発達症、ダウン症、自閉スペクトラム症、発達性言語障害 (DLD, 以前のSLI) 等の障害をもつ子どもの言語・コミュニケーションの課題について取り上げ、言語獲得の前提条件や、障がいをもつ子どもの言語獲得過程について知り、言語発達障がいの評価・支援・言語訓練の基本を事例を通して学ぶことができ</p> <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>学期末試験 (100%) によって評価します。</p> <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>テキスト:『ことばの獲得を考える: 子どもの言語発達を支える知識と視点』小山 正(著) ミネルヴァ書房 2026年 参考書:『発達の理論-発達の多様性の理解と支援に向けて』小山 正(著) ナカニシヤ出版 2024年</p> <p>《授業外における学習方法》</p> <p>①授業中に指示したテキストの箇所を読んで復習しておくこと。 ②小レポート、確認テストを課すことがあるので、授業中に提示した問題について考え、整理しておくこと。 ③各回資料以外に、まとめのプリントを配布しますので、整理に役立ててください。</p> <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>言語発達の過程は複雑です。まず、そのプロセスを理解していくことが、言語発達に障害をもつ子どもへの支援・訓練、それにつながる評価を行うことができます。各回の授業内容は言語発達障がいをもつ事例への支援につながります。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ことばの獲得過程における非定型性について説明できる。	テキスト第1章	テキストの「はじめに」、第1章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	「知的発達症」「学習症」「発達性言語障害 (DLD)」について学ぶ。言語発達障がいの原因や知的障害の原因疾患に関しても学ぶ。			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前言語期にある知的発達症をもつ事例への言語発達支援に向けての評価について説明できる。	テキスト第2章	テキスト、第1章1-9頁を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	前言語期の発達に関して学び、前言語期にある知的発達症の事例の評価について学ぶ。			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	知的発達症をもつ子どもへの象徴機能の発達評価とその支援について説明できる。	テキスト第3章	テキスト、第3章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	象徴機能の発達とその障害について学ぶ。			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	語用の障がいについて説明できる。	テキスト第4章	テキスト、第4章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	知的発達症をもつ事例を通してことばの使用とその発達とその評価について学ぶ。			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	知的発達症をもつ子どもの統語発達とその支援の基本について説明できる。	テキスト第5章□ □	テキスト、第5章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	知的発達症をもつ事例やことばの遅れの事例の統語発達について学びます。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ことばの獲得過程における言語経験について説明できる。	テキスト第6章□ □	テキスト、第6章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	言語指導における言語経験について学ぶ。		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ディスレクシアと読み理解の障がいについて説明できる。	テキスト第7章	テキスト、第7章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	読み理解の発達とその支援について学びます。		
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	書きの障がいについて説明できる。	テキスト第7章	テキスト、第7章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	書字の発達、書きことばの発達について学びます。		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	思考の道具としてのことばについて説明できる。	テキスト第8章	テキスト、第8章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	メタ言語能力、メタ言語知識の発達とその支援について学ぶ。		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ことばの獲得過程に見られる非定型性について説明できる。	テキスト第9章	テキスト、第9章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	幼児期における言語症について学びます。		
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ことばの発達支援についての基本を説明できる。	テキスト第10章	テキスト、第10章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	ことばの獲得過程に見られる複雑さ、多様性を踏まえた指導のあり方について学ぶ。		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ことばの発達のアセスメント(評価)の基本について学ぶ。	テキスト第10章	テキスト、第10章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	フォーマルな評価とインフォーマルな評価について学びます。		
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	障がいをもつ子どもへの言語発達支援における基本的事項について説明できる。	テキスト第9章	テキスト、第9章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	中・長期的に有効な言語発達支援にむけての評価・訓練について理解をさらに深める。		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	保護者支援の基本について説明できる。	テキスト第10章	テキスト、第10章を予め読んでおく。
	各コマにおける授業予定	保護者の心情を理解することや障害受容のプロセスについて学びます。		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	全体の総括と振り返り。	テキスト はじめに	テキスト、はじめにを読んで振り返ります。
	各コマにおける授業予定	本講義の振り返りを行います。		